



2016年度 大川賞受賞者

受賞理由

計算機システムの研究開発における先駆者として、コンピュータ関連産業の発展に向けた社会的貢献ならびに情報学を基礎とした学際複合領域の開拓及び多くの有為な人材の育成

相磯 秀夫 博士

現 職 慶應義塾大学 名誉教授
東京工科大学 理事(前学長)

学 位 工学博士(慶應義塾大学、1968年)

生 年 月 日 1932年3月3日

略 歴 1955年 慶應義塾大学 工学部 電気工学科 卒業
1957年 慶應義塾大学 大学院 工学研究科 電気工学専攻修士課程 修了
1957年 大阪大学 工学部 助手
1957年 通商産業省 工業技術院 電子試験所 電子部 技官
1960年 イリノイ大学 計算機研究所 研究助手
1971年 慶應義塾大学 工学部 電気工学科 教授
1982年 ケンブリッジ大学 ダウニングカレッジ及び計算機研究所 訪問教授
1990年 慶應義塾大学 環境情報学部 学部長・教授
1994年 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 委員長・教授
1999年 東京工科大学 メディア学部 学部長・教授
1999年 慶應義塾大学 名誉教授
1999年 東京工科大学 学長
2008年 東京工科大学 理事
2009年 東京工科大学 名誉教授

主な受賞歴 1968年 通商産業大臣賞
1977年 米国AFIPS National Computer Conference最優秀論文賞
1979年 電子通信学会 論文賞
1980年 情報処理学会 論文賞
1980年 電子通信学会 論文賞
1987年 通商産業大臣 個人賞
1995年 情報処理学会 功績賞
1995年 紫綬褒章
2006年 瑞宝中綬章
2008年 C&C賞
2009年 高柳記念賞

主な業績

相磯秀夫博士は1950年代後半、電気試験所(現在の産業技術総合研究所の一部)電子部において、トランジスタ方式計算機ETL Mark IV、Mark V、Mark VIの研究開発に従事された。特にMark IVの開発においては、当時は1本5,000円程度(当時の大卒初任給は13,000円前後)と大変高価であったトランジスタを極力節約した基本回路を考案する必要があったが、博士は、パルス技術を駆使して、一本のトランジスタによるダイナミック型基本回路を開発した。さらに高速磁気ドラム記憶装置やEDSACに準じて10進固定小数点方式による演算装置を内蔵するなど、動作の安定性と実用性を実証し、1957年秋にこれを稼動させることができた。

また、Mark V、Mark VIにおいては、計算機の高機能化・高速化・大型化・実用化に取り組み、電気試験所を通じて、計算機の国産化を目指した企業群を指導し、トランジスタ方式の国産コンピュータの開発と商用化に大きな貢献をされた。

博士は、1971年に慶應義塾大学 工学部 電気工学科に教授として着任し、その後も一貫して並列処理・分散処理・適応処理・連想処理・特殊機能処理などに関連する広範なコンピュータアーキテクチャに関する研究に従事し、米国National Computer Conference最優秀論文賞をはじめ電子情報通信学会等での4回の論文賞を受賞するなど、日本国内で極めて先駆的に研究組織を構成し、優れた業績を挙げてこられた。また、博士の高潔なお人柄と卓越した指導力によって、今日この分野の第一線で活躍している多くの研究者・技術者を育成された。大学教授を例にとれば慶大(10名)をはじめ、東大(4名)、他15大学(18名)、外国7大学(9名)が活躍する他、企業の役員経験者やコンサルタントも20余名を輩出している。

また、この間、第5世代コンピュータ、スーパーコンピュータ、情報処理相互運用技術等の国家プロジェクトの推進委員会委員長として積極的な貢献をされた。1970年代、1980年代を通して、博士はコンピュータアーキテクチャ分野でのオピニオンリーダーとして活躍された。

1990年には慶應義塾大学に情報技術を基盤として諸学問を横断的にとらえた環境情報学部の創設に、また1994年には大学院政策・メディア研究科の創設に主導的な役割を果たし、初代学部長ならびに大学院委員長を務められた。その後、1999年に東京工科大学に移り、日本最初のメディア学部の設立に参加して初代学部長に就任、同年6月、同大学学長に就任された。博士は、同大学においても工学部の改組や大学院の改革に積極的に取り組み、現在、なお理事として大学経営に携わっている。博士は、これらを通じて、諸学問横断的な学術的領域である“情報学”や“メディア学”に基づいた新しい大学教育・研究のあり方や情報環境の整備に関する重要な知見と示唆を残された。

このような多年にわたる情報工学の分野での教育ならびに研究における優れた業績により、博士は紫綬褒章や瑞宝中綬章をはじめ、情報処理学会功績賞など、数々の賞を受賞されている。

このように、相磯秀夫博士は、計算機システムの研究開発において、その黎明期より先駆者として携わり、わが国のコンピュータ関連産業の発展に多大なる寄与をされた。また情報学を基礎として学際複合領域を開拓し、教育研究環境の向上に貢献するとともに、多くの有為な人材を育成された。ここに「大川賞」を贈呈し、その功績をたたえるものである。